



新板
繪入

新鑑草

五

9
3448
5止



09
3448
卷 5

後久

横濱
本五
木村屋

第一

黃塚捕と聖の事

南京の城外に黄塚と云ふ百姓あり本、蘇州に往くしに、張才
 起と云ふ者有りて四五十年前小商賣に利と失ひて多に飄
 零をゆりて、黄塚に居り者憐愍とて之を女抱し而女を以
 て小配と家督と傳て多々黄塚と改むる黄塚深く其恩と感
 じとて、親しく之を女親と考とす、之れに黃楚は丈母悦む
 限り、黄塚が大商賣となり者ある、今耕作と業と
 して世をひく、一々書、斯く之を信りて、
 女房、猶小風なりといひ、
 始、親れ哭る、
 始、親れ哭る、
 始、親れ哭る、

一に父母黄塚と誦くまう。父老が不慮に天命を失はば、後先立
 る。人の福をさへおぼへて強くもなれり。あへて最悪なり。我
 母と水くちりて、同汝あまきと愛く先妻同お小暇く、聖澤存
 とぞ。いづく我くうらむと慰らあへて、何ぞ黄塚涙と流し、
 此に女親に仰きとも、是れはつらき年飄雲之如家、
 妻の情ふかりま。言にぞ、難し。然るも今漸百箇日ま
 わる。小のい汝泣くまの、うらむと神、謂く我此よ、一生は妻と求
 る事、何れとぞ。いと愛く、いと母と父母共体とみく。ま
 一乃、いづくもて、お孫に折せ、いと先け汝泣く打体ぬれり。
 黄塚農業と怠く、と相替り、れ。今日汝世も、いとく。

一に父母黄塚と誦くまう。父老が不慮に天命を失はば、後先立
 る。人の福をさへおぼへて強くもなれり。あへて最悪なり。我
 母と水くちりて、同汝あまきと愛く先妻同お小暇く、聖澤存
 とぞ。いづく我くうらむと慰らあへて、何ぞ黄塚涙と流し、
 此に女親に仰きとも、是れはつらき年飄雲之如家、
 妻の情ふかりま。言にぞ、難し。然るも今漸百箇日ま
 わる。小のい汝泣くまの、うらむと神、謂く我此よ、一生は妻と求
 る事、何れとぞ。いと愛く、いと母と父母共体とみく。ま
 一乃、いづくもて、お孫に折せ、いと先け汝泣く打体ぬれり。
 黄塚農業と怠く、と相替り、れ。今日汝世も、いとく。

まわりの地をいふ嫁さび甚小佛化とゆふ縁乃終業抱あつる
 一、而後此何と問をひ抗不狂比来常におもひた
 物をもよふ心不叶人なり。若良又あへん堪やうしき嫁やらん
 と答らる。時よ山神黄塚が形跡を後り昂導して墓たあふ
 居らる。黄塚の塚とみきりありもこゝを仙娘心よ念ひあ
 せよ。豊く縁もすと権後と山神の言れをひ。難後
 わり黄塚妻小離さる。このひ来一は妻と求めむ。寡男
 と尋らる。唯等閑の事めく。彼がふと和むかに海
 神の七妻れ法。一、愛し。其よりを種々の言使とよむ。彼
 妻小似らるれとや。遂は汝と娶らる。直しく変化の



御とけいひ能くともさるるに折りまやう。是何れも易事なれを
我彼が亡妻と見えし事なるれども、其妻の姿も姿も姿も姿も
や山神乃曰我よく彼が妻と見えたり。今其姿も姿も姿も
汝よんんてい通小家よりとく忽亡妻の形と成てしを
あへ抗美の味よ所謂美人ありて来我も其貌も姿も姿も
とく平生其神通と出して其後亡妻の姿も姿も姿も
をこれ山神も其小打の其形も、貴塚必き昔は別海と
思ひ出—汝と誓て永き盟と結べ—我はよハ汝が親と成て
貴塚と嘆く—さく幾仙良と連て貴塚が姿と通れば
貴塚不富い女とさく太く不富い女と不富い女と不富い女と

那が妻小似たる事と悲ひぞんしと塞より走お世約
な事侍人の哲御侍と叫ばしう山神おとてよと
びつる事いしと黄塚の姿も姿も姿も行方れ今
まやう—汝とぞや山神乃曰某、浙の位人揚信と申し共さ
年若く女と姿も姿も姿も姿も姿も姿も姿も姿も姿も
よ美さう近江平尔がう相恋の事もいれれなるや
願ひ小月ける貴塚い女と熱と打守せ同小似る人も多
かれをか死、遠町のふび人の如く我の妻よ生像なるその思
を乞何れ宿願の誘ひ回く父母の身をまはせ候ひのえ
とて小似小對しと云まらるが—やな事も作今青

馬ノ
巻ノ

四

ち某が方小は歌わらんや悲くば父母小者知るきく止まらば
山許小は悲び泣きし此後千言なく作とて信る打連黄塚が有
不小赴くる黄塚極子と結く女子と父母小らんをりぬあ親これ
とらうく忽黄塚しどは親子あくあくやと抱けく泣叫
羨仙姑ぬえききうのり神小とてかー我か父の昂け前あり人
か有清のひそしうそくくくされ黄塚院てしやう
我父母新黄塚し終ふ小之謂ある事とまらば免ぬとて始終
の事と信りう字をくれぬ神黄塚娘伴く涙と流し今此か
た心通あへぬ親の哭ききぬ我理あることと尚大やう小抄を時
小父母調へ拭てまらるは身我女子小知ぬまは捨も所と刻る

如く因り遠慮とさき事余れ事とりり神免信とて又
醒くと哭きけるぬ自我く良きと前ありぬくは歎と悲出
しぬを来回りいりんとく己ぬまんとくとりたれ父母慌て引
住りて情なりと詞う我女子に似たり今も先立し者れ親生
しつらん地と懐しく秋清も故小其形見と存き教目そ
よ留進とく地きぬしらん小足推を清尚し終とて先酒
とを備者行方人ものくう用るの有るあはれよ小事りぬ
どと同らればは耐黄塚やう来先まき踏次しと極子我
取作ぬとく始終と信る神の父母者細と愛く大小終る信は
息女成人は愛ぬらんがる苗地よまのけりや流小痛しきる

黄塚

黄塚

とある物かあはひあふと来し端はふまはれは法感あらん最
 死る女子因ふ小情と無道に痛くえんと憑くまはれは
 大志恨ひ行より易御事なりとて昂女子と送る三月津波
 一遂小別とて回ひけり扱着楚臣史如竟と花子てならぬ
 まはれ恨ひ黄塚小配史如睦して父母小孝とては男子
 と誕生しぬ黄楚臣孫と得て深く恨ひ其名と黄楚と付く
 珠乃如く寵をせし早に歳小ありとて或日其母不罵みたり
 くれ黄塚不思義小の近小講義と約しうた其むじご
 子一因く大志の城中城が在る如く遍く搜しきく己小こ
 目とるくく小黄楚母と約く哭事最長るり黄楚臣史

ぬ孫が哭く成見く小悲女見う行向の如くお社不思体たれ
 官府小折く金銭と乞んとてひ明約お出んき一亦小其東二
 更り時小黄楚母障子外より黄塚と詞とけくまはれは
 君はる我と約く諸方と過りありしゆを承て御志たり我今
 如と出りしは小謂わりの押来公承とて小棲義仙姫とて相あり
 約百年仙術とひひの針通目をけ身とあがりたげと人問
 一嫁しと子孫と残し共小若果と送んともひ海しや形と
 亦ありと君一嫁し一子と誕生はぬはれ君と我との縁も
 且もえまるとして後いゆか及ぶと出形と隠しゆたり我が赤
 の子黄楚天性聰明くく福をも亦文ける間成をうはる

位を尊し陛下に随分懇々の養育し給はる我とあるより
たうれと忽化しと失はるる黄塚迄と暮らして是も今暫と呼
るる四方とんれを子守り知しとれは長久しく哭し沈
けし方おるりさう申はうとて父母と清張しく乳母と求黄塚
と養育しとて七歳よりり聰明叡智地と紙一の初と之痛
と續きけふと一と固く十と知り十五歳の時に秀才とありと其名
と近國小孫の十九歳乃何状元及第小申の福かくと官小位
とめ家と起しと源孫を留しけりとありと黄塚が養とあると
知り父母小事へ孝行あり堪ひたんとて人々感しとるると
第二 郭珍母と北月て花看小出の事

北京城下小郭珍と云ふ負と云ふわのを母は事と忠孝と云ふ或
年れは老母をたと看度より一知ひりも一郭珍最易き事か
りとして食物のた認自しを母と北月て花ある紙よわの長
色に席とあて坐さし推しり食物とたがして母は進め候と
慰く痛りしとを母斜にうすほびらうら良きと涙と流し
とめけり八時と湯と花紅とち柳紙とす汝と何と湯
ざりふやと身とも遂と者く負く事守しと不便なと汝の
父存生れ時を家豊ありしに花看遊魚の座よ八幕と純種と
浦許多れ家へ侍奉しり閑熱なる事ありしが今日乃光
系まよはしと唯母子あ席のと小筆して流しとさまをたか

日汝志を志と結んとし存念はる明日より孝文と勤道
 年九月より清しある官小謀り多び先祖の家と結と念
 乞第一の孝行ならん我を恨ひ死しよりたげ教訓と忘らるる
 也郭公の書状ありて之を流し我今年二十一歳あり
 之未立身と遠ざかり社不孝とせぬ過と免れ我随分
 文と慕近年しづらふ心せし母心と慰れ進せんと思ふ
 懐そ陳東之と武官に歴る眷族ども以百連をとり見れ
 るふしとけいしにあり金襴綿の幕と注酒宴と催し樂くら
 が郭公母子が信しと飲く体とく陳東之を怪し自幕
 のかふせと本意と藏し我母子とくをたす伴し思ふ懐恨

母の志を志と結んとし存念はる明日より孝文と勤道
 年九月より清しある官小謀り多び先祖の家と結と念
 乞第一の孝行ならん我を恨ひ死しよりたげ教訓と忘らるる
 也郭公の書状ありて之を流し我今年二十一歳あり
 之未立身と遠ざかり社不孝とせぬ過と免れ我随分
 文と慕近年しづらふ心せし母心と慰れ進せんと思ふ
 懐そ陳東之と武官に歴る眷族ども以百連をとり見れ
 るふしとけいしにあり金襴綿の幕と注酒宴と催し樂くら
 が郭公母子が信しと飲く体とく陳東之を怪し自幕
 のかふせと本意と藏し我母子とくをたす伴し思ふ懐恨

ときく最湯へくやれから扱彼菊仙小娘は當年十六歳一
 城々る郭玲が風流長なる位也と云れり小慕りれらる其日
 法く黄昏目よおりし久郭玲母子懇勸よ一礼と俾と回りけり
 て郭玲翌日より孝文と勸め高と慕とく置来きと云しか
 不陳東之斜るごとけび毎度郭玲と信ひ懇よ女抱してま
 さら年とさうまら而郭玲孝文成就一自く夫人の相現しか
 不陳東之婿の想とさう郭玲を好く立身と遂官位は湛ん
 事疑わくび高菊仙小娘と云く彼は嫁きめ永く親子は縁
 と結んと圖り節婦と云て婚姻乃事と縁定一偕者見以
 擇く女児と嫁きめ悦る限るす郭玲是より小孝文

小結と入し福かく乃第小中て官人となり再い家と起
 くらそ乃ら孝心あつゆ夫人の加護と影り一者なりとて
 くと感どけらとわり

第三 張之由雷小打鼓事

徽州府は張之由と云者あり幼時父と喪ひ母は養育され
 之由已小十五のやなりとらうと孝ならず親親を極く怨む
 加一りた法之由大胆の者あり父は異見と用ひて只顧情愛
 と好徳二三年の間よ父を遺つそく打輪二十一歳を卒
 居宅とも賣らるひ城外を郷下よ出く百姓の家と備り
 最うひくく言けり時彼母諫くつやう母

十四五歳を以てり博愛と好む先祖乃を孫とて一ま
 半其最也を養ふなり自今以て心と及り過と悔ひて
 博愛とやち別よ商賣とて一々其家と起し今これ能と
 言ぐなり尚ほ言とて入るに博愛とやちとんけと小必と
 大なる福ありて終つて別きとと涙と流しと諫められ
 強き由大に怒り母と白眼に身おせたりと行まずと曉し
 多味言とてやちと異見とてと終つて家と返せと
 多しと罵り一かを母と涙と流し汝我が孫とて安んじ
 果しと福ひとありと母と一と心と悔ひとるまらと我に
 今親類ともう方に泣き悲とぬりまんといひに小座とま

とやちと罵り一かを母と涙と流し汝我が孫とて安んじ
 罵りつらげ声とる通とて一俄よと孫とて電領と雷
 响きと雨並と傾くやめとて遂に雷強とてと小落しとて
 頭微塵と碎と死とけり嗚呼とて悲むるも乃不
 孝乃天罰なり古今小説よみとてり

孝に 孫新幸小妻と涙の事

湖州府の孫新とて其貧しき人なり幼少時父母小はて見孫
 業に成りて其漸成とて其恩と感し兄小討ひて存
 孝にとて一々其年太小飢饉し今日と送るべき方便と
 可くか孫新其と終つて忠と我多年兄乃法恩と名取て

人よりいふ事なればはなれは鐵と救ごんべし生れ親なるん
兎やせん前やと案でかひ其目不曾規音小泰清一誓
殿座して前面と云れよ一人乃女静小歩と云る其貌花小似
この柳乃腰たどるる誠稀なる英女と云る詠り若されハ
己小孫新が前小むり同く拜殿小座より孫新詠にげ乃
如き美人と云りけはる小むら社不審なれは海縁改めし
うらば極子と云んと悲ひ女と云るまらる我熱と云身乃涙
うら小賤しゆら風情由り人れ津島女と推しうら極
よ小只知りけはる小むら極子あはははまは終りあ女
是より云やう其台別乃城下小黄菊と云り者れ女見り

自ら親が乃賊宝何るれ今年れ飢饉もも銀難と受る
何れに優しきうら知れ小先月乃初頭夜二更の時より救
の海賊我が家小礼也入着于此金根と奪取利之我と云國小
連なりそ非妻小さんと云たれを自ら曾て兼先と云常いけ
事と歎愁よ沈侍られ彼城とも我が心と對んと知ひ今日此
寺小むりこし乃傍なる菴乃内小集り酒宴と催し修
自の晴よ悲び出さるるありぬれく君我と知ひあはる
と云と流してれら孫新ゆらここの痛安はるうら小想ん安
思ひの我歌くまらよハ國小送り花進と云ん去るる盗
城を今にも為事と悪わん小先礼宅よ傍中とんとて還

女と背もゆほりゆり逃出たが如く小支回りの梅枝盗賊を
 小畑がんとぞり小伝く不審を以先刻菴の介し出たり今小畑
 ぬ半社懐され夫者よと云候小名店とぞく方と探されを
 色形もらんざりり申小色成乃石領大は終り終は女小みま
 いとぬ扱がまよと人よ若んぬ逃出たりとぞり若官府小使
 小畑れと乃ま事なるべとぞり懼て回らるる孫新と
 小畑と背もゆほりに回り兒孫業に對して妻面と清り孫業
 も裏の事いひ懸り女抱さんととれを二粒の茶も何れ
 只憫めやとぞり果てたら計り良有るかな東直く小畑と
 宿まんととれを我の原米負き者といひと今年代飢饉小

別して園新飯一今二粒乃別りかたればいひきんざりとも
 情しき事のかとぞりそんと涙と流らる小畑は体とぞり
 落涙し候小挿らる金銀とぞり孫新はまよとやい奴と
 茶一換りぬに五日と清きもの若我の園本は消息とぞり通じ
 必と連れ人まよと誠小御懇志は孫新と感候と孫新は白く
 茶小挿んかむまふりさるるをば命をと辨とらるる思
 たりとぞり遂は奴とぞり茶に換りぬ目とぞり初は皆別は事候
 くれ小畑恨んで始統乃の祥し書信は黄留とぞり方いと送か
 黄留は支ぬれとぞり一人れ女兒とぞり母は日夜泣悲とぞり
 且女兒乃書簡と送りぬとぞり親候は辨後小孫新なる小救

可なり誰と免たり。あつて逆と越えたり。黄蜀と小御地。小
具月自五六人と連て湖洲。越孫新が家に。女見小五對面。
孫新が懇志と安聞と大感。永い恩と報さん。元孫家
一物と孫新と婿小乞。我が國台州。移住人直しく女抱。
うんと。元孫家兄弟と台州。誘ひ即女見と以て孫新小要。
家暫くとおら。傳け孫新。是より黃留。名新と活舎
兄弟小夫人。も拘く孝と。これ家。盛子孫
孫新。一けり。これ。孝。此。地。ひ。か。り。や。か。り。一

新鑑を巻之八終

第一 林旁妖怪と捉へし事

御達乃城下に林旁と云。武士のり。或は朋友と。氣合し。一
後。序よ。一人のな。や。う。頃。城外。東。家。村。と。し。亦。よ。毎。夜
妖怪。お。く。人。と。傷。や。と。聞。き。あり。列。居。る。人。乃。中。小。誰。の。妻。と。見
る。も。知。れ。ぬ。と。い。は。し。林。旁。冷。笑。ひ。か。ら。る。を。此。御。代。は。昔。妖怪
有。り。人。と。傷。ん。や。さ。り。と。疑。し。ま。す。ま。り。や。ま。け。し。は。御。代。は
亦。く。と。や。我。全。く。荒。と。云。り。其。の。こ。小。城。中。小。荒。布。し。人。を
知。り。ま。り。元。妖怪。を。此。御。代。に。傳。へ。て。不。耐。し。や。り。者。を。り。高
懸。ひ。懸。ん。は。下。仕。く。虚。實。と。見。布。を。作。林。旁。や。り。我。も
斯。く。そ。お。入。つ。ま。さ。り。お。か。り。回。ん。は。暫。く。お。待。作。し。と。云。り。矣。

携馬に於糸城外小池出東乃方李家村へもあざむける漸く
村近くなりし所小基末天斗此傳語此當中に立て散て人とを
と林音より下側へ進寄る海行ぬかき語と揃るや
け急小現と人と傷小妖怪を定て己がらん其申をさし
きともし傳言て返言を林音想くろ矢と打搦能持て
漂し放りし心急消る矢小ゆる林音言方とこれに親をあら
ゆる馬小乗り語と可解りるや小向よりと女一人事ら月新
めらるる小もとまじり年此法二十斗りして強麻するはきり林
音も驚いた當世のく英人又稀なり必定妖怪形と交り我と
味とらんく何れもあま授回く朋友よとんと欲ひやぐく

初と掛もやう。汝女性やうとく只独衣まといふ小もの終
りばいぬ妖怪乃類たりん極子とま直しりごとん忽射
殺さんと罵りよ女泪と流しとりら我の妻乃人間なり。
必と恨め事なりん事と自れ妻小家を遠出れをれさく親
の方に母さんと欲ひいれんと迷ひ入りぬ年らと法りさん
あやしめと使小く抄林音背武蔵とあひし討着畜生と
我のつる小畜生此あやるとま細く傳授して其歩行の人
と異つるをさるる知りらるれ暗よんは毎く女の姿さやうを
らる小果しと畜生さめと人よ智りしわりの母を頃
人成傷小狐狸はえたりんと知りたれを故気暗くぬ解り

りてありてさやうげなよふ毎に妖怪おとく人々傷みぬも
 こゆけつとてつらん我いぬとて遠くから社事まで親の方こそ
 神を侍せん親里へ何せしやとて回るも女房も懐やう
 被着我と送る途中小籠と油のと竈の終よ我が食物と
 さんのかたを心れりよ懐の公着我と送る路に今生は法恩を
 らん我親の名と揚飛とりよ城中小籠と終は情憫とた
 もはくと力をいりよ中も林が云やう我も懐く城中有か
 もはく去来傳ひけんとて好も女房とて城中へと回るも
 好懐と林が油のと竈の行とも廻教さんと終ひれを林
 房曾も油のとて好小籠ひ極るも妖怪容易に成ると



半鐘つどきとて川もくく城中小舟より林亭妖怪と嘆て
 やうびとく深き水なる人の親の方小舟は流るゝらん且我友
 舟の一宿あり明を親乃方小舟ありて座中へ一女怪とて
 一羽の鬼も南と西と云ふ小舟せりて云々林亭妖怪と
 舟の朋友を待長し如小舟女が双りてとて林亭妖怪と
 妖怪と捉へて回りて列位出まると呼りしり朋友を一同出とて
 見ると人同中ぬ人なり妖怪を行き小舟やとて林亭高
 妖怪をいせたり好く見送ると云々妖怪大よおとて逃んとせ
 て大かた林亭に双りて捉られ身と脱く半叶とて涙
 と流し涙と伴我いまの人からい何れ妖怪と云ふをよと放

ありて嘆嗚でりたり小朋友をさそとてさそとて
 目よまらび女疑もたて人間なりと妖怪と云ふよと
 わりやとて林亭が白我明日はつとて現くと列位小と
 りし事小彼の詞と信りてあかるととて索とれ出ると女
 羽白松の葉と林亭と葉とて葉とて神通廣大乃妖怪と
 本件と現るる朋友た再と削くとい女妖怪よつと免と
 と云ふれを林亭の笑我が刺本件と現るとも疑ひと
 うんきと腰刀と拵く女が服の下とて刺きりて女と
 小例も死しけりて人々を驚かすて死とてとて米年
 昔とて知
 せぬ程ありしり朋友を林亭と捕して是下行とて
 妖怪

と知りあふ。林房を多くすれば十八般の武藝れい小養生
の歩きやうと知る教わ。是と云く我妖怪らますと曉らうと
この妖怪と絡りまきばんて不感じく心毛より李家村の
怪め〜〜〜妖怪出さう〜〜とわらう

第二 黄六之老狐一遇ふ事

湖州の城下小黃六と云武士あり常よ義と名く〜〜
大勇氣りる者ありかたを名と遠近に播ひ諸人よ〜〜
〜〜或年乃ま一人の僕と連る城外よ出たよ戲柳小傷く
竹方此方と吟遊ひさる狐よ一人乃老狐忽然や現れ脱て
云や今日幸有る公小見たり自れ乃怪ひ行まうと云小娘ん

と云懇懇よ致ひくら黄六と云怪し身を知音小の〜〜
も小来小向く礼とわひある老狐自我多年い山小棲を毛
怪と云狐ありされ公豪傑小ま〜〜と云狐乃子袖有るあ怪と
顔と云と現て作衣然情と云れをま〜〜涙と酒りる黄
六と云〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
お意乃養を〜〜肯てわら〜〜お娘んて云〜〜これ頃白と云
痛人ま〜〜小身が眷族と云許多打れ目〜〜小殺生休時〜〜若
杯ひ乃娘ん眷族を残すと被る乃小滅〜〜〜〜〜〜
我門と救ひぬらび恩を報と〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
と云と〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

行向いし事小事もする。おの白女割とある。黄六と云僕と云
 小回。自ら抗乃事。くつ作小のてが。白山がまの代人。やに
 や侍者。くつ梅枝。痛く白山。身はほけ。夜と著く。ふふう。夫
 又い。おと。く。回方と。窺ひ。ま。り。し。の。松。乃。樹。下。よ。黄。六。と。云。居。る
 と。ま。り。の。抗。乃。疑。小。抗。乃。黄。六。抗。乃。如。く。逃。出。て。戯。遊。斬。小。意
 一。く。白。山。打。殺。ひ。び。抗。乃。て。天。胆。乃。我。と。云。く。女。を。怖。ま。す
 尚。余。を。ま。り。て。戯。遊。六。く。海。の。神。通。わ。る。高。生。ま。ん。は
 何。れ。と。云。く。一。ま。り。射。殺。さん。の。代。と。云。う。ま。り。て。満。月。乃。如。く
 撰。集。乃。揚。て。漂。と。放。ら。ふ。黄。六。と。云。其。の。中。小。執。乃。わ。れ。何
 め。く。戯。遊。乃。白。山。殺。と。云。れ。ば。社。は。抗。果。く。神。通。乃。這。回。を

汝の賢と射候人受て。めら。く。く。白。山。小。文。能。撰。乃。放。と。云。黄。六。と
 至。び。其。乃。と。取。り。合。と。打。つ。白。山。甚。と。怒。り。第。三。乃。笑。と。放。ら
 ぐ。白。黄。六。と。其。前。と。松。下。に。我。は。神。通。廣。大。は。抗。乃。汝。が
 殺。生。と。戒。ん。ん。が。能。小。人。れ。能。よ。ま。り。と。く。つ。乃。神。と。ん。を。め
 たり。早。く。回。く。再。び。身。を。事。か。つ。統。と。呼。り。ん。白。山。甚。と。怒。り。
 刀。を。振。り。斬。り。老。を。黄。六。と。肉。を。避。け。白。山。乃。丸。乃。腕。を。傷。め。り。
 横。腹。と。刺。さ。り。し。の。白。山。地。と。は。傷。と。半。死。半。生。は。ま。り。景。乃。り。黄
 六。と。大。罵。て。曰。汝。大。惡。人。を。り。今日。身。を。社。運。乃。事。を。示。れ。我
 等。同。い。山。乃。何。と。ぞ。と。多。世。眷。族。と。汝。は。殺。す。と。云。恨。身。龍
 一。徹。さ。り。只。今。汝。を。殺。す。と。報。ぞ。ん。と。云。腰。乃。刀。を。抜。き。と。

白山の山をいふは教をいふは山よむらぬは一かへ
 一念の鏡一より影の月半我小老母人も来はあめく死
 をぞ母必定思小焦と縁は病も非余の死と縁をうへ一さ
 其の君子の回思と念とて取り作物とてくまに徳をいふ黄とて
 早く回とてと起しとれ白山大木根びと度様しく回りも
 月づらあは徳は老抗許多乃眷族をとり連て黄とてあふ
 跪之公乃威勢は依る白山と退をいふ乃喜何しと赤しとて
 金は銀一對銀の鐘二對黄とて之は敵と黄とて之は日傍とてい



上白のちのくまらるるに、管領のこゝに、借しと、悉備人集
まらば、或は首らる事あり、よ、連我ら、若く、其難と、救得きを
辱し、遂に別て、回らるれど、老抗之、難よ、家、城門、を、
と、送り、るら、白のち、黄六と、まの、抗と、あひ、大、悔、おれ
し、り、救、生、と、あ、く、身、捕、よ、お、ら、し、今、信、然、よ、ん、ん、ん、

第三 謝源牡丹の精小遊の事

信州府一人の文官あり、其名を謝源と号し、常に牡丹城
を、し、く、遍、諸、國、の、名、所、を、求、め、牡丹、園、を、作、り、そ、の、と、樂
や、し、毎、年、親、戚、朋、友、を、招、き、ま、さ、小、花、を、採、り、侍、と、賦、し、之、を
傳、へ、備、小、牡丹、の、徳、と、称、と、名、地、を、其、名、と、し、求、る、所、我、所

か、う、し、つ、ひ、く、一、夜、と、い、ふ、と、其、漢、武、帝、の、驕、者、魏、猛、は、此
と、く、あ、れ、ほ、ま、し、め、り、と、し、謝、源、が、牡丹、と、冬、は、甘、く、夏、は、涼、く、あ
人、寄、小、南、依、と、く、人、殺、と、言、連、謝、源、が、家、れ、は、門、と、お、彼、一、夜、小、丸
入、り、牡丹、と、踏、折、ん、と、を、一、紙、謝、源、は、声、を、發、園、の、門、よ、是、出、汝、
と、行、者、た、ら、ば、中、小、牡丹、と、壞、り、ん、と、と、ら、也、迷、よ、ま、ま、
と、ん、却、く、よ、ら、あ、悪、う、け、く、や、あ、り、し、小、魏、猛、は、烈、は、汝、汝
常、小、牡丹、と、春、一、夜、と、今、よ、と、さ、ら、し、我、ら、們、を、恨、踏、折、し、捨、ん
と、圖、ら、汝、若、夫、依、よ、ら、ぐ、序、小、諸、教、え、ん、と、悪、や、し、大、辱、れ、者、極
し、謝、源、と、水、圍、と、し、小、危、く、ん、ん、一、時、實、汝、も、同、く、安、れ、女、に、平
人、勿、然、と、い、は、し、と、同、小、丸、を、一、人、の、女、下、知、し、て、同、汝、く、力、と、出、

その御村に族と遊給ふ謝源と相なれ呼りけし女を
御へり如と奉と擡り四方へ當り抄ひし一御徳も不運
られ門外へと逃出けり謝源も不運と被りて向ふ
何れやう事なりけし今花子と稱ひて女を
の着るるが公に牡丹と名をさすも
眞人目も驚けれ今宵女使を連れて晴
貴て事も花けり御徳も被りて
動も不運の御へり牡丹と稱ひて
らんことろに我女使もいと
了不知と稱ひて不運と稱ひて

惟もく完爾等も御へり女を
も謝源も不運の御へり我女使も
おれり不運と稱ひて牡丹と稱ひて
の原も不運と稱ひて不運と稱ひて
も不運と稱ひて不運と稱ひて
よおきく門の色も不運と稱ひて
御へり御徳も不運と稱ひて
河海の水浅くも不運と稱ひて
御へり御徳も不運と稱ひて
御へり御徳も不運と稱ひて
御へり御徳も不運と稱ひて

明日此来も亦事りの必待中らんときいふ小畑潤と流し君
 の懐帳とこれのみ事我常小乞と感し扱くと今宵河津
 と救ひ且く熊乃枕と並流君と指しとらん信と表し作
 とりかき我を原人同よりとて乃河庭の牡丹乃猪ありと
 君此難と救ひぬとてとてとて申計とてげとて
 らの愛憐とこれとてとて思ひ急道とめ失ふと謝
 弄異れ思ひとてとてとて牡丹とてとてとて
 と牡丹君と稱とてとて八十餘歳と持遠と吾弟とてとて
 ありとて信乃とてとてとてとてとてとてとて

第四 蕭氏走乃仇と被と所事

代州府よ金勝と云者あり或時花央と云大富貴の人也
 と余會し酒宴乃とよとて不圖に毒と飲むととて恨とて
 と小のれとて花央とて感揚し傲り家来丸小乞とて令務
 と晴お少とてとてとて金勝の親類とて乞とて同て憤りとて
 置とて申小乞とてとてとて官府よとてとてとて
 央若平は金浪と官府乃役人送て賄賂とけとて小乞
 射決の刻は央とてとて申小乞金勝の親類とて宰かとて
 と乞と云知るととて官府よとて憎とてとてとて
 法と依くとてとて憤り乃中小月日とてとてとて
 と箇の金勝の妻蕭氏を日夜思ひとて怨と沈と心乃月

較し極むるに親類の目よ、仇と討んごる者ぞあり、月
 女よりとて、何とぞ討つた夫と討まらば、仇と報んご
 るに、極むるに、親類も、女乃身とて、仇と報んご
 夫に者、よく極むる家人と、持て、用心散く、外に
 山の洞、剛力者一、あ人宛側と、誰とん、何とぞ、成る、容易者
 ぞと、平、叶と、以、免や、角心と、碑と、よ、平、斗、り、も、り、栗
 道曼、道と、云者、蕭氏と、娶ん、ご、ひ、越、し、れ、蕭氏、が、延、る
 一、よ、着、我、が、ら、り、と、叶、作、人、を、り、ま、り、ま、り、と、り、ま、り、一、生、三、春、婦、と
 立、て、あ、ま、り、見、ゆ、り、と、云、け、り、親、類、を、其、極、み、と、り、蕭、氏
 が、同、我、よ、ま、り、仇、何、り、若、月、と、云、と、一、あ、が、と、合、を、便、よ、有、れ



敵と討て我を恨んぐ嫁とて一やらず親類をい言て
趙曼経のめくと昔も大少威に去連馬さん林がう、素必
相助の佛人と討てては小且婚姻の事と個あてて遂に若
目と振ん、蕭氏とて無けり押ひ趙曼経、力まはれ人、勝
勇氣の譽の者ありきと、蕭氏、んを合を佛人、花央とけん
や、園、月夜とて、福、ひ、う、小、或、日、花央、朋友、ね、ぬ
結、く、大、岳、寺、と、云、叢、林、の、清、め、た、と、休、り、遊、興、と、て、望、し
つ、じ、を、幸、れ、討、節、と、て、ひ、布、用、を、と、個、く、大、岳、寺、小、む、り、感
し、功、高、く、寤、ふ、よ、花央、朋友、と、別、居、く、觸、れ、つ、り、し、頻、小
興、と、て、一、樂、と、く、ら、趙曼経、蕭氏、の、討、と、て、海、浦、で

花央と討て我を新てあの上、彼ひ千誘り笑とて、龍共、あ、る
た、女、も、物、も、中、に、う、り、ど、い、か、と、接、て、進、む、蕭氏、を、よ、力、以、
え、と、刀、と、折、振、を、勢、と、呼、ぶ、曰、花央、我、と、識、視、を、あ、り、目、く
を、金、勝、が、嘉、蕭氏、あり、ま、乃、佛、人、道、と、て、其、一、丈、を、い、吹、
と、め、草、む、ら、花央、大、よ、終、り、花、意、小、刀、以、接、て、お、逢、ひ、座、の、人、く
周、章、情、を、く、逃、走、る、時、よ、花央、が、家、人、一、回、の、刀、以、接、振、蕭氏
と、破、ん、と、き、に、趙曼経、以、て、進、む、を、り、家、来、一、人、と、決、ま、り、吹、
例、し、ぬ、今、は、花央、唯、指、り、小、成、を、め、り、疲、き、氣、休、ま、く、遂、に、蕭氏
し、討、と、り、終、り、小、は、時代、別、の、知、府、と、名、と、を、進、む、と、て、今、年
替、り、の、新、知、府、を、り、け、ら、ぶ、ま、と、い、以、駿、勃、と、呼、ぶ、ひ、て、深、く、

志と感し、梓多乃下官とて遠く、趙曼經夫婦と薄し
 め、新々山花央が親類とて大勢と備へ、飽きりて其の
 者へ行かんとき、小下官等相支て言ひ、我々府より此位
 固く、曼經夫婦とも禮と奉命乃振舞ひ、心懸く打めん
 也、馬もよび、花央が親類を指威し、志を極め、近付老より、
 之をく牙より、使居下り、皆も下官を曼經夫婦と、中
 一、飯園宿府へ、連回り、きり、耐る、延云、立出、夫婦は者よ
 射回りの、ま、志と廢あひ、郡家人、事、心を極と
 ぬ、ぬ、曼經夫婦は、事、限り、一、府、又、花央が親類とも
 と、お、それ、折、花央、往、青、金、腸、と、教、一、方、有、妻、蕭、氏、今、又

花央と討め、汝も因果の、石、置、と、あ、ひ、別、と、あ、は、は、蕭、氏、又、婦、と
 恨、り、も、か、う、れ、若、万、一、彼、等、と、圓、討、と、る、者、け、九、族、と、滅、へ、
 せ、緊、一、く、云、付、あ、う、と、因、り、親、類、と、も、總、て、恨、と、休、曼、經、と、お、
 ら、着、一、人、も、ま、り、ま、り、と、滅、よ、せ、り、と、い、を、一、念、徹、一、と、敵
 と、討、ん、と、欲、と、所、付、心、と、天、ん、社、と、あ、ま、事、ら、と、遂、ら、と、
 たり、と、言、り、の、例、又、多、一、く、と、武、殿、の、如、く、一、と、樓、傳、
 け、又、書、よ、見、之、侍、り、
 第五 葛休親乃仇と報下りませ
 青州府、曼經、と、武、士、あ、り、生、質、致、一、く、と、武、殿、
 の、達、人、あ、り、と、傳、文、と、い、お、ら、う、と、せ、一、と、延、り、の、人、等、の、敬

どの事斜ちと或東首保朋友二人と茶をいし侍を以
 けりて各興と傳へりからぬ茶亮と云文信忠と首保と
 不和ありていざと東首保と歎き云や下武士されが
 流るる事を知りて分れを文章に事いあて不業の事
 あり然る小我といふ文と傳へんや一のふ不相像ゆよ
 思ふれは心は我らふふいづるも人並よまあめ家信
 といふことえけり首保おまへ下武士初我贈き武官
 けりて心はあやふ事と知す然も一座乃與は信の
 罪の文と論し作新撞はまゐ免をせ給て慙意あり
 々々茶亮を賜ふ茶に今討乃武士か一文字と目見徹

となりてあつたれはま回乃事代傳し自ら恥と得ら者
 あり多し下もいへりて類ありん嗚呼嘆いせと歎きり
 昔深衣本短靴にかなれば初と問く慙の大小をい
 下事といふも文官と云う撞き武官と歎きりも長く以糖突か
 下事下もい知る古人の糟と突りてい賞給まの事と云
 居るやのいさの恨をいふは座小能く試し我と文と傳
 恐らく我が知りし程の事下下得知りあり海下捕り笑
 事うかきと答へてわいひなき茶亮憤揚り海武官
 の事いふも何事と云曉さん我初討り初乃書と観
 あり茶亮及算小中といふ文官と云うがと天下に沈

たり海をぬきて返ると何乃文と海とんと既し意はなぬの
 た今ハ昔休庵の難く先母ハ武官ハ手取と人さんと
 人々昔休と押留しつゝ小徳も母と事小徳ハ梅春亮
 とはあゝ回つていふ事と急念小徳ハ意通と暗さん
 密に強力ハ長十郎ハ引具ハ信ハ長飛ハ昔休ハ回つて
 今や遅ハ待難きハ昔休斯ハ夢ハあつたかどと更の
 時ハ小徳と通り時ハ右ハ十郎ハ人ハ長一彦ハ巻ハ
 毎ハ捨ハ撫ハ衛ハ昔休ハ強ハと刀ハ接ハお違ハ面
 面ハ小徳ハ拂ハ小進者ハ五六人斬伏多とどか己ハ殺



かを踏くべきも叶はば遂に討て死にゆく。其時
りて、其指さるるに、小聖月尊保固討まき、終つらんと
沙汰あり。心と書劉氏、其子、尊休大、其子、目死
骸とあり。其小葬り、討て、行者とて、書きたるに、
其子、其夜、其子、一人、心と書、秦亮、其子、
らん、と書、其子、其子、其子、其子、其子、其子、
の、其子、其子、其子、其子、其子、其子、
年と過、其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、

心と焦して、尊貞とて、今よ、幸なりと、遺言とて、根骨髄
小徹なり、其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、
其子、其子、其子、其子、其子、其子、

んて蔵へ敵の名をうらみせん為めを現さすなりと書は
ひ忽一隊乃風と化して失せり着休と云ふに
敵も性名と知らずと云ふに許さずと云ふに
しり直小法師も夜別座を一人に此方にありと書休と
秦亮は悔入廻りと同様と云ふに許れぬと云ふに
けと八河船の中れりんと母小法師と信實と云ふに
家も小法師も動揺と云ふに四方は牆もしくたなり
証あり娘何根も用んむらわと云ふに許多は家小門と守
らと云ふに許れぬと云ふに許れぬと云ふに
らと云ふに許れぬと云ふに許れぬと云ふに

小法師は許れぬと云ふに許れぬと云ふに
さし小法師は許れぬと云ふに許れぬと云ふに
御房間小進入りと云ふに許れぬと云ふに
色寄の着休が子着休と云ふに許れぬと云ふに
呼と云ふに許れぬと云ふに許れぬと云ふに
別座へ外へ出と云ふに許れぬと云ふに
着休家小回り聖物世間此と云ふに許れぬと云ふに
付入と云ふに許れぬと云ふに許れぬと云ふに
檢使ゆり金銀返と云ふに許れぬと云ふに
亮と云ふに許れぬと云ふに許れぬと云ふに

鈴木瀆洲先生著

温盡隨筆

全四冊

此書ハ因字ノ隨筆ニシテ雅俗ノ考証
ヲカ子學問ヲ心カクルニ甚ク益マル
故ニ博物家モ座右ニ置バキ書ナリ

遊仙屈鈔

唐張文成作
學士伊時點
全五冊

此書本邦ニテ中華ノ小説ヲ譯解スルハ
此書ヲ以テ始祖一人嵯峨天皇ノ時學士
伊時ナルモノ神仙ノ譯ヲ得テコレヲ解ス
トイヘリ小説家必讀ノ書ナリ

忠臣銘々傳

粉色入
全壹冊

一勇齋國芳畫
此書ハ赤松ノ義士四十七個彼等ノ
實徳と譽とを五國才大ノ氣流を
画シテ一冊画手本ノ最上ノ作

造物趣向種

全二冊

此書ハ氏神ノ祭禮他種は會或は物年
ふだの習俗を多かるおくりし造物を
人とちりし時候子可矣も出来のり
はつて書とて一冊に終るる石版
かきおいてつづくにあつて用ひて
きくくきくしなれば書ふりて造物と
よりたつた人をよりつて書ふる也

同貳編

近刊

和對照書札

前後全二冊

星洲泰先生書
清朝人ノ當時應用ノ書牘ヲ和文ノ書
簡ニ翻譯シタレハ學向ニ益ニシテ且ツ
星洲氏ノ書ノ尊義ナルヲ嘆賞スヘシ

加藤在止翁著

太平國恩理談

全五冊

此書ハ和代を平國恩の義理を以て自
身胸中のたのしみを述一人に吾れもむの
徳を云外あり文小書家の自在を以て
人をも成じしを未始の士あるは懐
俗の非を病み及訓の大成著述し其成利
けして名と一人とものたひあらば
言に天下國家の幸なづとて是小書
やめたあつて書ふれハ半終俗界
女老少ともに能く成會得せ身神
儒佛の兼修を以てたのほらう書
うほり能く書ぶらうして書とて書
ふらし美小座右とて書とて書

三教童論

全四冊

此書ハ三教童論の入り小故りとして
画はく日おりしとく和のりしとく
悪を林の古代守事忠孝のりし
幼き女小しとせし書しこれハ書
時ハる夜小書を以てし

古今武勇歌仙

小本
壹冊

此書古歌より武勇の名を名士の
和歌を集めて六歌集より神代付古歌
由乎と歌をち其首條ありしとて
歌を注し且其人迷愛の歌其代りたれ
ハ如きものりてあそびにこれ
ハる市進曲につけてハ其歌の全
本重法の本なり

梅室老人撰

題英叢句

全四冊

梅室老人は法華の宗匠名承の自を集め
その中より英句を撰たり集巻の巻も小
ふありんを以て書にうて業ト云ふ自注の
句を以ていさと云わやまづ

好華堂主人著

女重寶記暖後

全一冊

し書女重寶記の情女はしめ姑婦の例女重寶の
教を述懐はてす其の著るは花食のは年たぢ
病後のまゝに或は再濟和行中より名を以
て書して一ト杯何といふ事あるはしめ女重寶
と云相とるまゝに女重寶に於て大益
あるはしめ女重寶に於て大益
あるはしめ女重寶に於て大益

前北齊正老人画

繪本彩色通前後二冊

梅室山川本鳥居の虫魚の記はしめ
しを以て衣冠のりす人地の内より或は
小なるびりたり風氣のせし月日の遷り
と妻とて書す人小は梅の内よりたま
てしもの羅のかきて下の中の一つり
もるのくのつりく環の法はしめ面を好
り書のおぢやまかんの法はしめ又
本のやうに傳ひしし本めやまかんの
編をつき冊を重にうて正徳十年の日
行はしめ日之風をこまめしし法は
委しく傳へしめその法を傳へしめ今を
古き法はしめその法を傳へしめ

同 三編 近刻

書

林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同本石町十軒店	英 大 助
同淺草茅町貳丁目	須原屋伊 八
同芝神明前	岡田屋嘉 七
同神田旅籠町壹丁目	紙 屋德 八
大阪心齋橋通博労町	河内屋茂兵衛
同心斎橋通本町角	河内屋藤兵衛

